

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます



作：イラストレーション領域3年 坂場美咲さん（東京都 蒲田女子高校出身）

秋の造形展開催

日ごろの授業を通じた作品制作の成果を学内外に発表する「第6回秋の造形展」が、宝翔祭（学園祭）期間中の13、14日にキャンパス内で開催されました。

展示会場は領域ごとに分かれてそれぞれ工夫がこらされ、イラスト領域はイラスト作品以外に立体作品も出展、マンガ領域は主にマンガ作品（短編マンガ他）とキャラクターカット、アニメ領域は動画のアニメ作品だけでなく絵コンテやプロットも出展されました。また、ゲーム領域は東京ゲームショウ（9月19～22日）の出展ブースに展示した作品を、映像領域は昨年までに制作した映画を上映しました。さらに今回は、1年生の初年次教育授業「創造基礎」の中でグループ制作した作品も展示され、中でもペーパークラフトによる衣装は宝翔祭のメインステージ上でファッションショースタイルで披露されました。

出品された作品は各領域の教員が審査し、優秀作品にそれぞれ賞が贈られました。このうち最優秀の金賞には、イラスト2～4年各1人の3人▽マンガ1～3年各1人の3人▽アニメ1～4年で個人1人と3グループが選ばれました。また、「創造基礎」の授業から1グループが金賞を獲得しました。

2013年度造形展 金賞受賞者 一覧（敬称略）

■イラストレーション領域

- 2年「妖精像」田村友季（秋草学園高校出身）
- 3年「NEST」（ポスター）藤代実咲（晴海総合高校出身）
- 4年「なめ吉のたからもの」泉杏子（中央大学附属横浜高校出身）

■マンガ領域

- 1年「こんなやついました」照井沙織（川崎総合科学高校出身）
- 2年「藤鬼・ふじき・」伊藤琴乃（朋優学院高校出身）
- 3年「音楽漫画」佐藤想乃香（片倉高校出身）

■アニメーション領域

- 1年「部屋」曹詣旒（留学生）
- 2年「ぼくのみち」李班 李成蹊（留学生）、任流泓（留学生）、荒澤光子（浦和学院高校出身）、泰田楓（東洋英和女学院高等部出身）、久米紗綾（工芸高校出身）
- 3年「メロディー」菅原班 菅原あずさ（芸術総合高校出身）、岡野幸子（昭和第一学園高校出身）青井若菜（国際学院高校出身）、長津未来（武蔵野女子学院高校出身）、木村亮文（堀越高校出身）
- 4年「Monster Carnival」長澤班
長澤美玖（千葉敬愛高校出身） 阿部麻衣子（土気高校出身）、久保田和奏（駿台甲府高校出身）
小島沙友里（横浜商科大学高校出身）、村岡菜月（小平高校出身）、靱山聡美（横浜商科大学高校出身）

■1年創造基礎（ファッションショー）

- 「アリス イン ワンダーランド」
ブンナクバス（留学生） 菅原綾香（小平西高校出身）、原田若葉（貞静学園高校出身）、和田恵里奈（文華女子高校出身）、田中拓也（進修館高校出身）、陳心韻（留学生）、畑翔一朗（静岡県 学芸高校出身）

【金賞授賞作品（抜粋）】



マンガ1年「こんなやついました」照井沙織



マンガ2年「藤鬼 - ふじき - 」伊藤琴乃



グループ1年「アリス イン ワンダーランド」



イラスト4年「なめ吉のたからもの」泉杏子



アニメ4年「Monster Carnival」長澤班



アニメ3年「メロディー」菅原班

宝翔祭とホームカミングデーを開催

今年で7回目となる学園祭「宝翔祭」が13、14日の2日間にわたって、新宿キャンパスで開催されました。今年のテーマは「2.5次元」。2次元と3次元の特徴を兼ね備えたものにスポットを当てようという企画。各フロアに2次元キャラクターを空間的に配置したほか、ステージに学生が制作した映像をプロジェクションマッピングや透明スクリーンに投影して2次元から3次元の空間融合を試みるなど趣向を凝らした演出を行ないました。201教室のメインステージではゲストを招いたライブショーやコスプレイベントなど多彩な催しが繰り広げられ、2日間で昨年の約900人を大幅に上回る1669人の来場者が訪れました。



初日は、午前中の学生たちによるファッションショーの後、午後からはシンガーソングライター町あかりさんがライブショーに登場。町さんは作詞・作曲から演奏、振り付けまでこなすマルチタレントで、現在「musicるTV」(テレビ朝日)に出演して人気急上昇中。学園祭でのライブは初めてで、代表曲の「もぐらたたきのような人」を踊りながら歌い、盛んな拍手を浴びていました。

2日目は、華やかなコスプレダンスの後、若手声優の野中藍さんによるトークショー。すっかり定番となったキャラクターコンテストは「とらのあな」の吉田博高社長らを審査員に迎えて行われました。また、領域ごとに工夫を凝らしたイベントを展開。マンガ領域は4コマ漫画の空いているコマに来場者が好きな絵やセリフを入れられるコーナー。イラスト領域はオリジナルの小物づくりが出来るコーナーなどを設けました。さらに、キャラクター系コスプレ衣装を借りて記念撮影できるブースには高校生たちが詰めかけて人気を博しました。後夜祭では、ステージのある201教室で祭りの宴を惜しむ学生たちが大勢参加し、軽音部の演奏と歌に合わせてダンスする学生たちで夜遅くまで盛り上がりました。

新宿キャンパスにとっては初めての「ホームカミングデー」が宝翔祭初日の13日午後6時すぎから学内で行われました。2011年の第1期卒業生から今年3月の第3期卒業生まで参加したのは94人。竹内一郎学部長が「皆さんは自分の巣に戻って来られた。お帰りなさい」と歓迎の言葉を述べ、第1期卒業生で本学教員の上原愛弓助手が「私は大学にいますが、外で活躍している皆さんの話を聞くのが楽しみ。思い切り旧交を温めたい」と卒業生を代表して挨拶しました。



ホームカミングデーの一コマ

このあと、卒業生たちは思いおもいのテーブルで歓談。久しぶりに顔を合わせた同窓生同士で昔話に花を咲かせたり、記念撮影したりする姿が各所で見られました。また、各領域とも多くの教員たちが参加し、懐かしい教え子との再会に声を弾ませていました。全体パーティーは北見隆学科長の音頭で閉会となりましたが、卒業生たちは領域ごとに各教室に場所を移し、夜遅くまで別れを惜しむなど、第1回のホームカミングデーは大盛況のうちに幕を閉じました。

地域のイベントに参加

9月末から今月上旬の間に新宿区内で催された地域イベントに、学生たちが参加しました。

若松町と河田町で行われた「若松河田ふれあいまつり」(9月29日)には、似顔絵描きで参加。阿波踊りやエコレンジャーショー、模擬店、作品展示など、子どもから大人まで楽しめる企画が多かったことから、大勢の来場者が似顔絵コーナーを訪れ、大盛況となりました。

歌舞伎町大久保公園で開催された「歌舞伎町ふれあい市場」(9月29日)では似顔絵描きのほか、渡邊准教授が参加した被災地のアートイベント「女川アートシーズン」を紹介するブースを設置し、被災地でのイベントを紹介しました。

荒木町・舟町全体が会場となった「四谷大好き祭り 2013」(10月5日、6日)には、昨年に引き続きの参加。似顔絵描きのほか、オリジナル缶バッジなどを販売。似顔絵ブースは大盛況で、常時列が絶えないほどでした。

参加が恒例となった「神楽坂青空フェスタ」(10月6日)では似顔絵描きブースを出展。ブースには多くの人々が訪れ、スタッフ総出で来場者の似顔絵を描く場面も見られました。



「神楽坂青空フェスタ」では、
多くの人々が宝塚大学ブースを訪れました



ペットの似顔絵の依頼も



「四谷大好き祭り 2013」では、オリジナル缶バッジや
同人誌も販売



似顔絵が大好評

多文化交流プログラム

新宿区民と外国人との接点と交流を目的とした多文化交流事業（主催：新宿未来創造財団）の活動に、市野治美講師と上原愛弓助手が参加しました。

5日に本学で開催されたプログラムのテーマは、「写真からイラストマンガを創ろう」。当日は、漫画好きで、日本文化に興味のある新宿区内の留学生や区民14人が参加。市野講師が全体のプログラムの解説、説明を行い、上原助手がサポートしました。

授業では、市野講師が画像編集ソフトである Adobe Photoshop の使い方を分かりやすく説明。最初に各自で自分の写真を撮影。その後写真をパソコンに取り込み、画像編集ソフトで写真をマンガ風の画像に編集する工程を体験しました。

画像が出来上がった後はポストカード風にプリントしたほか、缶バッジも作成。その場でできる缶バッジに参加者は感心していました。

参加者の中には漫画に興味を持っている外国人も多く、中には「日本語は漫画を読むことで覚えた」と話すドイツ人の留学生もいるなど、参加者同士の交流も活発に行われました。

この日作成した缶バッジとポストカードは26日に新宿文化センターで開催される「国際都市新宿・踊りの祭典2013」で展示されます。



参加者を前に講義する市野講師



写真をマンガ風イラストに変換



イラストをその場で缶バッジに

アジアなどの大学生たちが訪問

外務省が進める海外青少年交流の一環として、ASEAN（アセアン）各国などの大学生や大学院生たち24人が3日、新宿キャンパスを訪れました。

24人はいずれも日本のポップカルチャーに興味を持つ大学生たち。竹内学部長が歓迎の挨拶を行い本学の概要を説明した後、アニメーション領域の卒業制作授業を見学。機材を駆使して作品を創る4年生の姿に、通訳を介して熱心に質問するなど興味深げでした。

この後、アニメ領域の月岡貞夫教授が「アニメーションは何をつくるのか」と題して特別講義を行い、日本のアニメがなぜ世界をリードしてきたかといった話などを真剣な表情で聞き入っていました。

昼食を取りながら交流会が開かれ、本学からはアニメ領域を中心に学生たちが参加。石川雄仁・自治会委員長（東京都 渋谷教育学園渋谷高校出身）が「おもてなし」をもじって軽妙に挨拶した後、会場ではコスプレサークルの学生たちが思いおもいの衣装でダンスを披露し、一行を喜ばせました。

最後に訪問団を代表してインドのキルティさんが「アニメの製作現場や本格的なコスプレダンスを見れて、とても楽しい時間を過ごせました。皆さんと撮った写真は大切な思い出です」と感謝の言葉を述べ、全員でドラえもののテーマソングを合唱しました。



学生の説明に熱心に聞き入る参加者たち



学生たちのコスプレダンス



盛り上がった交流会

北見教授 絵画展

北見隆教授（イラストレーション領域）の絵画展「ものがたりの始まり」が3日から9日まで東武百貨店池袋店・美術画廊で開催されました。北見教授は1995年から同店で絵画展を毎年開催しており、今年で19回目を迎えました。本学の学部案内の表紙を飾った作品など約40点が出品されました。同展は北見教授の絵の長年のファンや、多くの一般客でにぎわいました。



本学学部案内の原画も展示

<北見隆教授 プロフィール>

武蔵野美術大学商業デザイン科卒。イラストレーター。絵本『夢から醒めた夢』や『聖書物語』などの作品で知られる。廃材を利用して立体作品などを生み出すリサイクル・アートでも積極的に活動。受賞歴は「第13回サンリオ美術賞」、「ブラチスラバ絵本原画ビエンナーレ 金のリンゴ賞」など。

「銀河鉄道の夜」を発刊

イラストレーション領域の3年生が中心になって自主制作した作品集「銀河鉄道の夜」がこのほど完成、発刊されました。

作品集は全144ページ、カラー刷りで、学生49人、教員11人が出品。学生は1人が見開き2ページを担当し、左ページには銀河鉄道の夜を中心に宮沢賢治作品を題材に採ったオリジナル作品、右ページには授業などで制作した作品を掲載しています。

同領域による作品集は今回が4回目の発行。1作目は「赤ずきん」▽2作目「青い鳥」▽3作目「ピーターパン」と童話を題材に「赤」「青」「緑」の色シリーズでつないできて、今回は「銀」色がテーマ設定されました。表紙部分のデザイン、レイアウトには工夫が凝らされ、巻頭から7ページは宮沢賢治の紹介、表2から表4は銀河鉄道の地図をあしらひ、表2には切り取ってシオリに使える鉄道の切符まで添えられています。

編集長を務めた3年生の藤代実咲さん（東京都 晴海総合高校出身）は「初めて作ったにしては良い出来栄えだと思っています。先生方にも褒められてうれしいです。一緒に頑張ってくれた編集委員の皆さん、先輩や後輩にも感謝してます。何より自分自身が制作に携わる機会を頂いて成長できた気がします」と話していました。



授業紹介

アニメデジタル基礎〔受講学年：1年（専門選択課目）、担当教員：芦谷耕平専任講師〕

この授業では後期の半年間をかけ、PCを使用したアニメーション制作のデジタル技術についての基礎を学びます。同時に、デジタルソフトを使用した映像編集の概念、アニメーション制作も広く映像制作の一つである、という意識のもと、時間軸を用いた作品創りのノウハウを習得していきます。使用ソフトはAdobe社製のフォトショップ、プレミア、アフターエフェクツなどです。

後期前半の授業では例年までの先輩たちの制作作品を上映し参考にしながら、自分たちの最終提出課題のイメージを育ていき、アニメーションの基礎知識や編集に関する講義を並行して行い、後半にかけて、本格的な作品制作に取り組んでいきます。その際、編集ソフトを習得しながら、モーシオンによるムービングイメージと、音響素材（BGMや効果音等）とのマッチングをいかに行うかという、「スポッティング」の技術も同時に養っていきます。

アニメーション制作に必要なスキルは非常に多岐に渡ります。それらの作業を一通り自身で行うことによって、絵を動かし、それに色や音を付ける、というアニメーション本来の魅力と喜びを、学生たちは授業を通して学びます。

制作スケジュールの前段階として、様々な先行作品や、『ジョジョの奇妙な冒険』『超次元ゲームネプテューヌ』など教員自身の携わったアニメーション作品の他、TVアニメーションに限らずアートアニメーション、CM、PVクリップ等を視聴し、主にそれらのアニメーション映像と「音」との関係に着目し研究を重ねていき、並行してソフトの使用法を学ぶための練習課題を行なっていきます。初期の課題は効果音に合わせて簡単な動きをつけるベリーショート作品を制作。アニメーション制作に欠かせないタイミングの取り方を身に付けます。

スケジュールの中盤から後半にかけ、自ら選定した楽曲や台詞の語りなどに合わせ、複数のカットを用いたシークエンス構成による簡易PVを制作していきます。映像の構成・編集に欠かせないモンタージュ理論や口の動きを音声に合わせてリップシンク、スポッティングやソフト制御により素材に動きを加えていくモーシオン等、様々な技術を駆使し、最終的にはゲーム等のCM風映像やアニメ番組のPV、オープニングやエンディング風映像といった多様な形式で、半年間で見違えるようなアニメーション映像作品をそれぞれが表出していきます。



芦谷耕平講師



学生制作による課題作品
梅原綺奈さん（さくら国際高校出身）



学生制作による課題作品
坂本佳織さん（千葉萌陽高校出身）

学生紹介

イラストレーション領域 1年

澤田千春さん（東京都立 深沢高校出身）

— 宝塚大学を選んだ理由

高校までダンスを続けていましたが、絵を描くことも大好きで進学は美術系に行きたいなと思っていました。一つ下の妹も私と同じように絵が好きで、その妹が自身の進学のために見つけてきたのが宝塚大学です。大学案内を見て私自身もこの大学に進学したいと思うようになり、妹より先に入学してしまいました（笑）。妹もすでにAO試験で合格し来年入学します。



澤田千春さん

— 充実した大学生活

入学して半年が経ちましたが、多くの友達に恵まれています。初年次教育の授業で知り合った違う領域の友達が、受講している授業に必ずいるのでとても楽しく授業を受けることができます。サークル活動も欲張って2つのサークルに加入しているのですが、ここでもいろんな領域の友達と楽しく過ごしています。サークルはコスプレサークルと軽音楽部に所属しています。加入するきっかけは新入生歓迎会での発表です。高校まで続けていたダンスを活かせるサークルがあると思ったことと、楽器をやりたいと思っていたところに格好いい女性ギターの先輩を見て一目惚れしたのが加入の決め手になりました。

— 大学祭での活躍

大学祭ではコスプレサークルのダンス発表のほか、軽音楽部でのギター演奏、他大学の大学院生とともに制作したコスプレ演劇の役を演じました。またステージ進行のスタッフも担当して大学祭運営にも関わりました。あれもしたいこれもしたいと欲張ったおかげで出番も増えて大変でしたが、とても充実した大学祭でした。中でもアニメのキャラクター姿でステージ進行をしていたときに、トークショーをしていた声優さんにコメントしてもらったことがとても嬉しかったです。



コスプレでのギター演奏(写真右)

— 様々な課外活動

大学での課題制作はもちろんですが、授業外の活動も積極的に行っています。所属するコスプレサークルのメンバーとともに、ASEAN各国の学生たちが本学を訪問した時にダンスショーを披露したり、新宿文化センターで開催された「多文化交流フェスティバル国際都市新宿踊りの祭典」に出演したりなど言葉の壁を越えた様々な交流を体験しました。これからも積極的にいろいろな行事に参加したいと思います。

— これからの学生生活

高校入学前はグラフィックデザインの仕事がしたいと思っていましたが、イラスト、デザインだけでなくアニメーションなどいろいろやりたいことが見つかってしまい、将来の自分の進路をどう決めていけるかがこれからの課題だと思います。自分で決めて入った大学ですから、いろいろやりすぎていることも自分の責任でやり遂げるつもりでいます。いろんな体験をしてこれからも自分を高めていきたいです。

今後の予定

■ 東京デザイナーズウィーク 2013

期 間：10月26日（土）～11月4日（月・祝）
時 間：11:00-21:00 最終日 20:00 まで
会 場：明治神宮外苑絵画館前（中央会場）
内 容：昨年に引き続き、東京デザイナーズウィークにイラストレーション領域が参加します。本学イラストレーション領域は、TDW2013 のテーマの中から“FES”を選択。学生たちが作った額縁の内側に立つことにより、見る側の人間は見られる側に逆転し、物語の主人公として変身出来る、参加型の作品展。撮影自由。その場で撮影したプリントのサービスも行ないます。



■ グループ展「OZ」

期 間：11月17日（日）～23日（土）
時 間：12:00-20:00 最終日 18:00 まで
会 場：デザインフェスタギャラリー原宿 EAST102
内 容：イラストレーションコース 第4期生を中心とするグループ「ZIGZAGZOO」による展示です。企画展のテーマは世界的な童話「オズの魔法使い」。ドロシーと仲間たちの魔法と冒険の物語を、彼ら同様に個性豊かな学生たちが描きます。



■ 進学相談会（ミニオープンキャンパス）

日 時：11月16日（土） 13:00～16:00
会 場：本学新宿キャンパス
内 容：学校紹介、入試説明、コース紹介、相談コーナー、作品展示、アプリ体験コーナーなど



宝塚大学

www.takara-univ.ac.jp

東京 新宿キャンパス

東京メディア・コンテンツ学部 | 大学院
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号
TEL.03-3367-3411 FAX.03-3367-6761
[E-mail] tokyo@takara-univ.ac.jp



■ 周辺マップ



<宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問い合わせ>

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室
担当: 金澤、山本 TEL: 03-3367-3411